

「ゲノム医療実現バイオバンク利活用プログラム（ゲノム研究バイオバンク）」

令和4年度終了課題事後評価 評価コメント

No.	評価課題名	補助事業 代表者名	所属機関	役職
000-001	利活用を目的とした日本疾患バイオバンクの運営・管理	山梨 裕司	東京大学	所長

【評価コメント】

バイオバンクに求められる広汎な実施項目について、事業として求められる成果を達成しており、日本を代表するバイオバンクの一つとして運営されていると評価できる。臨床情報分析支援プラットフォーム SIMPRESEARCH 等を活用した先駆的な取り組みも実施している。

今後はさらに、外部提供した情報の利活用状況や、成果の知財化の状況について十分把握するとともに、医療実装に直結するような成果の創出、ベンチャーの育成につながる研究開発等に取り組んでいただきたい。また、本バイオバンクの特徴を解説しつつ、企業の成功体験を紹介するなど、きめの細かい広報活動による利用層の拡大も検討いただきたい。ゲノム解析、メタボローム解析、プロテオーム解析、リピドーム解析等のデータの利活用が進み、日本はもちろん海外からも多数の研究成果が生まれ、日本最大の疾患バイオバンクとして発展することを期待する。